

私たちの手で支えあいの地域をつくる

「地域共生社会」という言葉を知っていますか？

「地域共生社会」とは、地域住民や地域の多様な主体（行政・自治区・事業所・ボランティア団体など）が参加し、住民一人一人の暮らしと生きがい、地域を一緒につくっていく社会のことです。

近年、ライフスタイルの変化などのため、日頃の「困りごと」や「心配ごと」が複雑化・多様化しています。自分や家族だけでは解決できないことも増えているため、住民同士の支えあいがますます重要になっています。

■愛の福祉ネットワーク事業

芦屋町社会福祉協議会では、地域での支えあい活動の一つとして、「愛の福祉ネットワーク事業」を行っています。この事業では、地域の人同士で見守り活動を推進し、異変を感じたら住民主体で話し合い、解決を図っています。必要があれば他の団体につなぐこともあります。互助の精神から生まれたもので、10年以上実施している自治区もあります。



◆江川台区での地域交流会の様子

芦屋かるたを使って町の歴史を学ぶ交流会では、参加者が町の歴史を語り合いました。このように顔を合わせてつながりを作ることで、互いの様子を確認することができます。また、情報を共有し、気になる人への対応を行っています。



芦屋かるたを使った交流会

◆はまゆう区での地域交流会の様子

交流会を行い、地域の住民が集まり、顔を合わせることで、つながりを作っていきます。公民館まで来られない人は、要見守り配慮者として、遠くから見守りつつ、必要があれば自宅を訪問し、体調の確認をすることもあります。



敬老会で地域の人が漫才を披露

高齢者や障がいのある人、子どもなど、すべての人が住み慣れた地域で支え合いながら、自分らしく幸せに暮らすためには、あらためて人と人とのつながりを見直し、地域の問題を「我が事」として考えていくことが大切です。



▷問い合わせ 芦屋町社会福祉協議会 (☎222-2866)

中学生の「税についての作文」表彰式

昨年12月1日、芦屋中学校で中学生の「税についての作文」入賞作品表彰式がありました。

これは、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が全国の中学生を対象に税の正しい知識と理解を深めてもらうために、租税教育の一環として作文を募集したものです。

芦屋町では、芦屋町長賞を受賞した芦屋中学校3年生の土谷龍亜貴さんが表彰されました。



芦屋町長賞受賞作文

増税・減税「決着？」録



「税金が高い」「税金を減らしてほしい」このようなことを周りの大人が口にしていた。現在の日本では、商品の販売やサービスの提供にかかる消費税、個人の所得にかかる所得税、自動車を持つている人にかかる自動車税など、様々な種類の税金が導入されている。それらの税金は、国民や住民のために使われている。そのような状況の中で、本当に税金を減らすべきなのか。私は、どこか心の中に蟠り^{わたかま}を覚えたため、自分の中の決着をつけることにした。

いざ決着をつけるとして、何か判断材料になるものが不可欠だ。そこで目をつけたのは、世界と地域の消費税（付加価値税）率だ。

まず、消費税率が高いことで有名な北欧の国、フィンランドだ。その税率は、20パーセントを超える。一見、人々の生活は窮屈にも見えるが、実際はそうでもないようだ。フィンランドでは、税金を活用することで、医療費や教育費を全て無料としている。そして、国連が毎年発表している世界幸福度ランキングでは、なんと六年連続で一位だ。このように、税金が多いからといって生活が苦しいわけではなく、むしろ成功していると言える。

▽問い合わせ 課税係 (02223・3534)

芦屋中学校 3年 土谷 龍亜貴

一方で、台湾は世界で最も消費税率が低いと言われている。ならば、税金が少なく、サービスが低下することで、人々の生活は苦しくなっているのだろうか。実は、台湾もそうではない。台湾では、「税金の負担を軽くすることで、社会保障に頼らず、自分達の手で自立して生活しよう」という考えが取り入れられている。そのため、台湾の社会はしっかり機能しており、人々の生活も安定している。参考に、台湾の世界幸福度ランキングは、中東を除くアジアで一位だ。

このように、税の負担が大きい国も、軽い国も幸せな生活を送っている人が多い。

つまり、人々が幸福な生活を送るためには、税金を減らす、増やすということではなく、これからの社会のために税金をどう使うのかをしっかりと考えて、納税者にしっかりと理解してもらえ、社会を実現することが必要だと思う。そのためには、海外の税制等を参考にしてもよいと思う。

現在、私は「税に関する作文」を執筆中だ。このように中学生のときから税について知る機会があることは、とてもよいことだと思う。しかし、国民や住民に、より一層理解してもらうためにできることは、まだあるのではないか。私は、自分ができることを考え、行動していきたい。一人ひとりが幸せに安心して暮らすことのできる日本になることを願う。